



「春の足音 (フクジュソウ)」



令和4年3月1日

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社  
連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

# あなん

## もくじ

- P1 表紙 遊歩道
- P2・3 成人式特集
- P4 西富士開拓団
- P5 おらほの若い衆、私の趣味・自慢、私の夢
- P6 わが町の石造文化財
- P7 お知らせ
- P8 あの人 この人、うちのホープ、編集後記

## 遊歩道

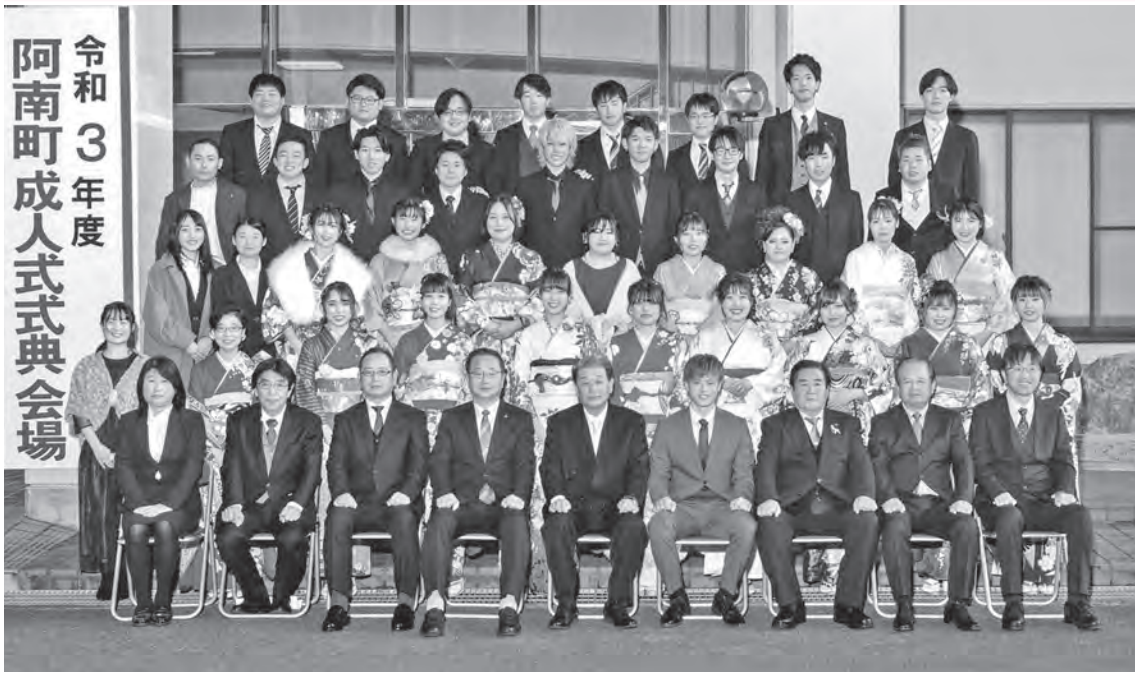
二月四日は二十四節気における立春。前日三日は節分で、本来の壬寅年が始まる前に、門や玄関に鬼除けの柊鱒(ヒイラギの枝に鱒の頭を刺す)を飾り、福豆(炒った大豆を升に入れ神棚に供えたもの)をまき、鬼(病気や災害)を追い払って新年を迎える重要な意味がある。コロナも一気に追い払って春を迎えたい。

「数年ぶりに帰省」をよく耳にした年末年始。一月の第二週末頃から見事に全国的に爆発的に感染者が増大。当県も通称「まん防」が適用されるほど感染者が出た。前が見えない現状の中、大切な人たちと会えないもどかしさは募る一方だ。

今年のテーマは、本来の自分が持つ役割を意識すること。人それぞれ担うものは違えども、必ず誰にでも、生まれてきたあなたにしかできない役割がある。それを探るのが人生。

制限が多い中だからこそ、何ができるか可能性は無限大ととらえよう。キーワードは話し合い、心が一つにまとまれば新たな芽が出る！さあ！希望満タンの春ですよ!!





令和3年度  
阿南町成人式典会場

特集

新成人おめでとう  
令和3年度成人式  
1月3日

富草地区

- |    |    |    |     |    |     |    |    |    |       |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |
|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| 吉越 | 村松 | 北野 | 佐々木 | 松澤 | 佐々木 | 市瀬 | 塩澤 | 勝又 | 大下条地区 | 村山 | 村山 | 小林 | 小林 | 村田 | 松下 | 今井 | 大倉 | 勝野 | 江頭 | 金  | 菅沼 | 宮島 | 佐々木 | 井東 |
| 友唯 | 明香 | 緋菜 | 木彩那 | 亮太 | 花音  | 佳乃 | 晴生 | 夏望 |       | 将志 | 涼華 | 弘哉 | 弘太 | 幸平 | 泉  | 藍子 | 伊織 | 啓太 | 智  | 成美 | 厳  | 航希 | 優果  | 勇人 |



新野地区

- 小泉 雨峰

和合地区

- |    |    |     |    |    |    |    |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |    |
|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|
| 松澤 | 花梨 | 長谷川 | 梨那 | 松澤 | 花梨 | 勝又 | みづき | 佐川 | 統夢 | 春日 | 快晴 | 田村 | 晴香 | 熊谷 | 拓也 | 金田 | 有旅 | 齊藤 | 有旅 | 松谷 | 萌 | 熊谷 | 拓也 | 金田 | 澤治 | 木村 | 英瑠 | 金田 | 青龍 | 奥田 | 裕貴 | 中村 | 常愉 | 城田 | 真希 | 熊谷 | 優花 | 外村 | 玲音 | 村松 | 興実 | 勝野 | 珠樹 | 佐々木 | 風香 |
|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|

実行委員長

あいさつ

村山 将志さん

本日の成人式を執り行うにあたり、町長様をはじめ、来賓の皆様、恩師の先生方には公私ともご多用のところご臨席を賜り、私たちの新たな一歩をお祝いくださり、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大で延期となっていた成人式ですが、本日、このように式典を挙行できますことに、新成人を代表して心より感謝とお礼を申し上げます。

私たちの中には、既に実社会入りして働いている者、勉学に励んでいる者などがいます。それぞれ置かれた状況の違いはあれ、一人ひとりが自身の将来に向かってひたむきに前進する所存です。

今日これまでの人生でお互いに競い合い、励ましあい、苦楽を共にしてきたこの仲間たちと、こうして成人式を迎えることが



でき、大変うれしく思います。これからもこの仲間たちと切磋琢磨しながら成長し、阿南町、やがては日本の未来を背負う世代として、あとに続く世代の見本となるような社会人を目指していきます。

今日、私たちが、こうして成人式を迎えられるのは、私たちを支えてくださった家族、導いてくださった先生方、それに地域の方々、共に歩んできた仲間たちのおかげです。

今後はこの感謝の気持ちを決して忘れず、成人として自覚・決意を持ち、これからの人生にて、悔いのないよう精一杯、自分たちの信じた道を歩んでいくことを誓い、成人を代表してのあいさつとさせていただきます。

令和3年度成人式  
成人者アンケート  
調査結果

新成人にお願いしたアンケートの結果を掲載します。

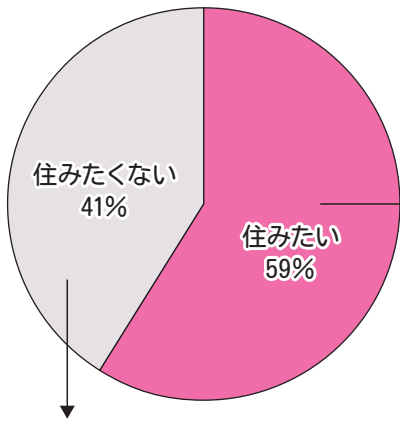
現在阿南町に住んでいる人の割合は28%となり、例年と大きく変わらない結果となりました(過去5回平均25・5%)。また、将来阿南町に住みたいですか。という質問の回答は59%が「住みたい」と回答し、例年と大きく変わらない結果となりました(過去5回平均52・8%)。

住みたいという人に意見を聞くと「地元が好き」が約半分と最も多く、次いで「自然が豊か」が約4分の1となりました。

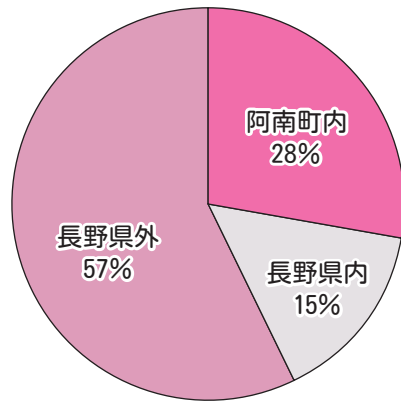
住みたくないという人に意見を聞くと「働きたい場所がない」が最も多く、次いで「阿南町以外でやりたいことがある」という意見が多く、この2つの意見が過半数を占めていました。結果は以下のとおりです。



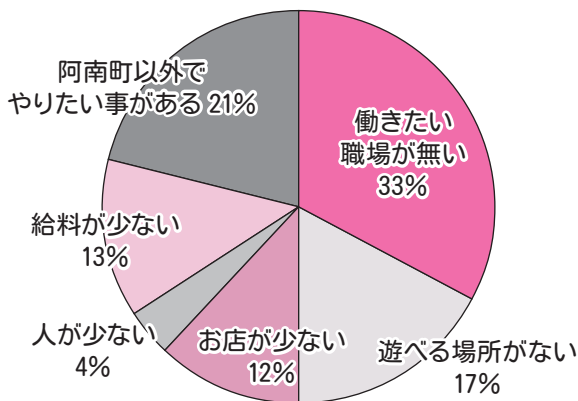
あなたは将来、阿南町に住みたいですか



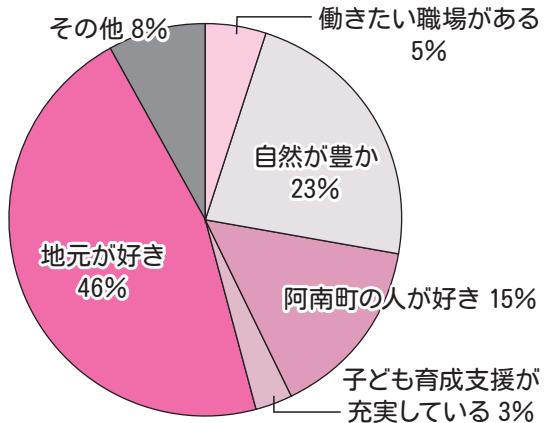
あなたは、現在どこに住んでいますか



阿南町に住みたくない理由は何ですか



阿南町に住みたい理由は何ですか





## 西富士のあゆみ

### 連載にあたって

公民館報では、生涯学習の一環として前回まで故熊谷秋穂氏の大陸流転を掲載させていただいておりましたが、今後は郷土の歴史について掲載したいと思います。

今回から大下條村(現阿南町)の政策として行われた西富士開拓団についての記事を掲載していきます。

戦後76年が経ち、平和な社会が形成されています。今後も平和が続くよう活動していきたいと思えます。

第1回は西富士開拓の背景について掲載します。

### はじめての開拓団

昭和6年の満州事変後から昭和20年の太平洋戦争敗戦までの期間に国策として推進され、満州、内蒙古、華北への移民の総称を満蒙開拓団といいます。

当時の日本政府は世界恐慌のあおりを受けて深刻な経済不況に陥っ

ていました。農村経済を支えていた養蚕業は特に大打撃を受けて農家は借金を負い、村や町といった自治体も負債を抱えていました。

満蒙開拓団は内地にある農村民を中国大陸へ移民として送り開拓することで農民を救済すると唱える人たちと駐屯兵移民による満州国の維持を考える関東軍によって発案され、昭和11年までの5年間を試験的移民期として毎年平均して3千人程を移民として送りました。その後、日本政府は国の7大事業の一つとして本格的に移民を開始しました。昭和12年からの5年間では年間平均3万5千人が移民として中国大陸へ行きました。

日中戦争が激化し、内地の農村労働者が不足するようになると移民希望者が激減しましたが、国策としての計画は変更されず、予定していた人数が減少することも続出しました。

太平洋戦争末期の戦局の悪化により開拓団からの招集も増えるようになり、昭和20年8月にソ連軍が満州に侵攻すると関東軍は開拓移民を置き去りにして逃亡しました。当時の開拓団員の実数は22万3千人でその大半が老人、女性、子どもでした。男性が少ない開拓移民は逃避行と難民生活の間に8万人が亡くなってしまいました。満蒙

開拓に送り込まれた総数27万人のうち、長野県出身者は3万4千人で最も多く、全体の12%を占めています。

### 西富士開拓団の設立

大下條村は全国屈指の山間地であり、耕地面積は零細のため多くの人を満州開拓へ送っていました。

昭和20年、終戦により復員軍人、満州からの引揚者などの多くの人が村に帰ってきました。村にとってはこれらの人々をどうするかが大きな課題となっていました。

この年、政府が戦争引揚者の就業対策と食糧増産を目標とした「緊急開拓政策」を発表しました。この一環として富士西麓の開拓が開始されました。

大下條村長の佐々木忠綱氏はいち早く開拓計画を村の事業として進めることを決め、愛知県や静岡県などの候補地を見て回り、西富士地域を大下條村の「分村的開拓地」として決め、入植者を募ると、即座に百数十人が集まりました。準備を進め、昭和21年1月31日と2月末日の2回に渡り、1300人余りを送り出しました。

開拓初期はリーダーシップをとる人材が不足していたため、統率が取れず立ち行かなくなっていました。

そんな時に白羽の矢が立ったのが、当時大下條村の助役として送出責任者であった伊藤義実氏でした。義実氏は、食糧問題の改善や続出した栄養失調者の栄養状態の回復など活躍されました。

大下條村でも家族会が結成されていて、資金や物資の補給を行ったり、激励慰問を行うなどの支援活動が行われていました。

はじめは野菜を中心としていた西富士開拓団ですが、昭和21年に乳牛1頭を譲り受け、乳牛の飼育研修をしたことをきっかけにして、徐々に酪農が推奨されるようになり、昭和24年には有畜経営が推奨されるようになりました。

昭和29年に集酪政策の指定を受けた時には、260頭ほどの外国産の乳牛の導入に成功し、経営方針を酪農に転換していきました。そして、朝霧高原と呼ばれるようになりました。現在の朝霧高原は酪農と観光が大きな産業となっています。

今回は、西富士開拓団の時代背景と開拓初期の様子を紹介させていただきます。

次回からは、実際に開拓された方のお話や、そのご家族が聞いた話などを掲載していきます。

# 私たちの趣味・自慢!

新野  
ペンネーム 齢70の新野のじいさん

ある日公民館編集委員の方が我が家に来られ、「あなたの趣味・自慢の原稿をお願いしますか」との依頼を受けました。齢70にもなり趣味の話は恥ずかしいような気がしますが、人生70年で趣味、道楽、コレクションは多岐にわたっています(自慢)。他人の趣味自慢を聞いても興味のない人にはつまらないものと思いますので、自分がこの趣味のおかげで多くの貴重な友人ができた話を書こうと思います。

十数年前、両親が高齢になり介護のため新野に帰ってきました。以前より趣味のラジコンを新野で楽しんでいるグループがあり仲間に入れていただきました。ここでまず仲間ができ、ラジコンでも飛行機・ヘリコプター・ドローンいろいろあります。自分はどちらかという飛行機が好きで、新野の飛行場では少し狭いので距離で約100キロ離れた場所にある公園に行き、飛行機を飛ばしていました。またここでも多くの友人ができ、趣味のおかげで多くの友人ができたのが自分の自慢です。



新野の雪景色と愛機



和合 寺村  
いながき たくや  
稲垣 拓也 さん

・あなたが今やっていることについて教えてください。

建設会社で道の舗装の仕事をしています。厳しい天候の時でもやるし、体力もいるし、体調管理には気をつけています。

田舎ではますます必要になる仕事なので、技術を向上させ、資格も取っていきたいと考えています。

・これからやりたいことは何ですか。

アウトドアが好きなので、キャンプに行きたいです。高校の頃やっていた弓道も続けられたらと思います。

和合の念仏踊りや町の行事にこれからも積極的に参加して、地元の手助けができる人になりたいと思っています。



## 私の夢

富草小学校 6年生

勝野 結夢さん



私の夢は、まんが家になって絵をかくことです。

私は、小さいころから絵をかくことが大好きです。今もほとんど毎日かいています。それに、まんがも大好きです。読んでいるとなんだかその場面に合った気持ちになれるから楽しいです。好きなまんがは、何度読んでもあきません。そういう気に入ったまんがの絵は、特に「いいなあ」と思っていてかいています。

私は、いつか読んだ人が楽しくなって、おもしろいと思ってもらえるようなまんがをかきたいと思っています。そのために、しっかり努力をしていきたいです。私の夢、がんばってかなえたいです。



# わが町の石造文化財⑤

## 新四国啓建供養塔(東條) 阿南新四国八十八カ所の開創を語る

この供養塔は阿南町東條、曹洞宗正法寺山門手前の石段の脇に建てられている。

碑高一二〇cm、基壇を含めると、総高一九〇cmの整った重厚感のある石碑である。

新四国霊場の本家は、勿論、お遍路で知られる四国霊場で、弘法大師(空海)にゆかりのある八十八カ寺をいう。



新四国啓建供養塔 (正法寺)

この寺々をめぐる巡礼を一般にお遍路と言ひ、早くから信仰の対象とされてきた。

大師信仰が民間で盛んになるのは江戸時代になってからのことである。しかし、交通不便の時代、信仰熱が高まり、お遍路にあこがれても、海を渡って、四国の霊場をめぐることは、至難なことだった。

そのため、江戸末期頃から、全国各

地に四国霊場を模した、大小さまざまな新四国霊場巡拝コースが出現するようになる。身近にある巡拝コースをめぐることで、四国霊場をお遍路したと同じご利益が得られると信じられたのである。

この石碑は、こうした時代背景の中で、建立された。「新四国啓建供養塔」の「啓建」とは、曹洞宗用語で「法会を始める」という意味に使われる。つまり、この塔は新四国供養の「始まり」を意味する供養塔である。

碑の左側面には「日咄天保五龍集申午年(一八三四)陽月(二月)立焉」とある。同じく右側面には、つぎの文字が二行に刻まれている。「願以此功德普及一切、我等与衆生皆共成仏道」これは釈迦の「妙法蓮華経」から採ったもので、一般に読経の終わりに唱えられる回向文(普回向)である。読み下すと、「願わくば、この功德をもって、あまねく一切に及ぼし、我等と衆生と皆、共に仏道を成せん」となる。意識すれば、「もしできるなら、私が行うこの善行を、あらゆる人々にも振り分け、私も全ての人々も皆、平等に成仏できますように」(関係書による)となる。今にいう「絆」を感じさせるが、新四国開創の趣旨を釈迦の教えを借りて表したのである。

石碑の基壇上段の正面には「第壹

番」とあり、八十八カ所の第一番、出発点であることを示している。その右隅に土州塩沢村栄次朗の名が小さく刻まれている。四国の人であることから、この事業に何らかの役割を果たしていたと思われる。

左側面には金一分を寄付した施主八人の名が刻まれている。

右側面には、「発願」として「前関昌徳全申」と読み、世話人二名が刻まれている。実は、この記述は大変貴重で、新四国開創にあたって、正法寺の本山である関昌寺(阿南町富草)が中心となつて計画したものであることが読み取れる。

さまざまなことを語る石碑であるが、この石碑からは、本山より第一番を仰せつかった、施主たちの張り切りようが伝わってくるようである。



赤い帽子が第28番、29番の大師像

この石碑に結びつくものとして、『阿南新四国弘法大師番付覚』(『阿南町誌』近世編)がある。『町誌』では年代不詳となっているが、この石碑が見落

とされていたようで、天保五年に大師講が成ったことは、碑面から明らかである。

『番付覚』には第一番正法寺から第八十八番関昌寺まで、範囲は現在の阿南町、売木村、下條村まで広がっている。個人所有のもの一七、数人あるいは村中共有三三、あとは観音堂、庚申堂などの諸堂や域内の寺院などである。

それぞれの霊場には大師像が祀られていた。現在見られるものは、ほとんどが同形で、像高四五cm前後の座像(石造)である。移動や散逸で、所在不明のものもかなりあるが、観音堂などには「第何番札所」の札が掲げられているところもある。

第八番を祀る東條の個人宅には、昭和九年の弘法大師千百年祭の折に新調した賽銭箱と織旗が残されている。戦前までは、年配者や出征兵士の家族などに巡拝する人がみられたようである。



第8番大師像

**新型コロナウイルス感染拡大防止のため  
中止となつてしまった行事**

1月から3月に開催を予定していた行事ですが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となってしまいました。

過去開催時の写真といっしょに掲載します。

◀**富草新春お楽しみ会**

2月6日に講師の大場満朗さんをお迎えして開催する予定でした。



◀**体協冬季大会**

1月30日と2月6日に開催を予定していました。



▼**和合演芸大会**

2月6日に開催を予定していました。



▼**富草囲碁ボール大会**

1月30日に開催を予定していました。



▼**新野展示会**

2月27日から3月6日までの開催を予定していました。



▼**新野卓球とバドミントンの親睦会**

2月27日に開催を予定していました。



▼**あなんカラオケ歌謡大会**

今年度は特別ゲストに宮内ひろしさんを招き2月27日に開催を予定していました。



▼**南部地区芸能交流会**

3月6日に開催を予定していました。



**おしらせ**

来年度のみんなで走ろう駅伝競走大会は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、開催時期を変更し、11月ごろの開催を予定しています。日程などが決まり次第改めて周知させていただきます。ご理解、ご協力をお願いします。



# あの人この人



新野 本町  
古松 祐二さん

昨年3月31日に仲間4人でアサゲプロジェクトを新設しました。そして9月より自分は建築関係の仕事で独立し、アサゲプロジェクトを会社として兼業農家会社としてスタートしました。「多くの人を笑顔に」「地元の人々の助けになって循環する仕事」「小さな幸せを積み重ねる」「フードロスを少なくする」という4つのコンセプトを掲げ、このコンセプトに共感してくれる13人の仲間が集まりました。この仲間の大半は「新野から☆元気にしまい会」の移住促進活動により新野へ移住してくださった皆さんです。

この移住促進活動も、約3年が経とうとしています。これまで6家庭を迎え入れることができ、ゆくゆくはこの活動が町全体に広がってくれることを願いながら日々活動をしています。

アサゲプロジェクトもスタートしたばかりで、まだまだ具体的なものはありませんが、自分たちが楽しみながら、楽しみの連鎖が広がることを信じて、これからいろいろなプロジェクトを発信していきたいと思っています。

みなさんのお力をお借りしながら地域のためにがんばってみようかなと仲間と話している今日この頃です。

した。更にこの4月から2家庭が移住されることになっております。

## うちのホープ

私の名前は和花です。大下条保育園のうめ組で、お友だちや先生と楽しく過ごしています。

私には妹の風花がいて毎日いっしょに保育園に通っています。私のことを「ねえーねー」と呼んで私のマネばかりしてきて困っちゃうこともあるけど、とってまかいい妹です♡これからたくさん



大下条 深見  
秀和さん・佐知子さんのお子さん  
和花ちゃん、風花ちゃん

遊ぼうね。

私はうめ組になってから縄跳びがたくさん跳べるようになったり、竹馬に乗れるようになったり、できることが増えたので嬉しかったです。今楽しいのはマフラーを作ること、家族の分をコツコツとがんばっています。この前、富草のおばちゃんにも頼まれちゃったからがんばらないと!!

家では絵本を読むことが大好きで、時間があれば何冊だって読んでしまいます。ときどき、朝早く起きてパジャマも着替えずに絵本を読んでいることもあって注意されちゃうので気をつけたいです。4月から小学校1年生になります！お気に入りのランドセルを背

負って学校へ行くのが今から楽しみです。元気な1年生になりたいな♪

令和4年は寅年です。新年早々、那須サファリパークで通常は居住していない通路に「虎」が居て、飼育員が朝食の準備中に「虎」に遭遇し襲われ負傷しました。この事故はサファリパークの管理上の初歩的なミスでした。また、昨年より世界中で流行が始まったコロナ感染症も、武漢での初歩的なミスが原因との説もあります。

コロナ感染症が、異常な速度で拡大が進みました。今、主流となったオミクロン株は、コロナ株の13番目の変異株であり、オミクロンとはギリシャ文字のアルファベットであります。新たに変異株が見つかった場合は、ギリシャ文字のアルファベットを順次使用するそうです。

ワクチン接種と、内服薬の開発・承認により一刻も早くコロナ感染症の収束が図られることを心より望みます。

